

理 科

主任：岡 靖浩

(1) 今年度の目標

- ① 自然現象に関する興味関心を育てる。
- ② 関心を持った事柄について、自ら考察する力を養う。
- ③ 問題解決を行う力を養う。

(2) 主な取り組みの計画

- ① 自然現象に関する興味関心を育てるために。
 - ア 授業を通じて、様々な科学賞や大学の高大連携企画等を紹介し、参加を促す。
 - イ 理科系の部活動の行事への参加を呼び掛ける。
 - ウ 科学オリンピック等へ興味を持つ生徒に参加を呼びかける。
- ② 自ら考察する力や、問題解決する力を養うために。
 - ア 問題解決に利用できるホームページを授業を通じて紹介する。
 - イ 定期的に課題を与え、提出を呼びかける。
 - ウ 自主的に取り組むことのできる問題プリントを提示する。
- ③ 問題解決を行う力を養うために
定期試験・校内模試・学力テストなどのテスト直しを、各自でまとめさせる。

(3) 授業アンケートの結果と分析

- ・実験については、「実験が印象に残っている」、「興味をもって授業に取り組んでいる」という生徒が多数で、もっと増やしてほしいという意見がほとんどであった。進度のバランスから考えると回数を増やすことは難しいが、内容を精選し、生徒実験をできるだけ増やせないか検討を続ける。
- ・生徒実験を実施した結果として、特に生物や地学では学ぶ内容が身近な事象が多く、中学校で習った内容を引き継ぎ、より深く学んでいくものであったため、取り組みやすく意欲的に学習できたと思われる。
- ・2年生の物理で分かりにくいという意見が、かなりあった。3年生ではそれほど分かりにくいという意見がないので、物理の学習は、本格的には2年から始まり、最初、なかなか馴染めないのではないかと思われる。4月当初に、物理の学習に早くなれることができるよう、小テストや復習プリントなど少し多めにして対応することを検討している。
- ・地学の5問テストなどの取り組みにより、「復習する機会が増えた」という回答が多くなった。授業のスピード、板書内容などは「現状のままで良い」という意見が多かった。宿題やテスト範囲の問題集をきちんとすれば、結果につながってきていることが、分かり始めた生徒もいるようである。

- ・2年生理系の生物では毎時間のテストが効果的だったとほとんどの生徒が感じていた。
- ・問題演習の例題およびその解説は学力差により、現状より簡単でよいという生徒もいる一方で、丁寧に詳しくしてほしいという生徒もおり、難易度に幅をもたせた問題演習を行う必要がある。
- ・授業そのものについては、全体的にどの科目も良い評価である。ただ、試験前の提出締め切りがなければ演習はやらないのが実情である。ノートや問題集の提出があると勉強できるとの意見が多い。

(4) 今年度の成果と課題

昨年度から、2年生の土曜塾で理系の希望者に対して、物理・化学・生物の受験対策を始め、受講した生徒の受験に対する意識を早めに高める機会を設けられるようになった。本年度は昨年度より受講者が増加し18名となった。希望する生徒の数維持し、内容をより高度なものとしていく。

昨年に引き続き、授業については演示実験などを含めて、限られた時間内で印象に残るなどの有効な実験を選抜した。また、問題演習の解説は補助プリントなどを作り、学力に応じて学習できるような取り組みをしている。さらに理解力の高い生徒に退屈にならないように発展問題などを取り入れるなど様々な工夫をさらにしていきたいと考えている。

来年度から、3年生理系で、総合学習で補助していた部分が減少するので、1年化学基礎と2年化学のつながりをさらに工夫し、進度を早めなければならない。

授業の後に振り返りカードへ、授業内容などについての感想などを記述する機会を設けているので、その都度、こちらも生徒の意見を聴きながら授業に反映するようにしているので、今後も継続したいと考えている。

授業時の生徒の反応にもよるが、進度を少しでも早め、演習の時間を十分確保したいと考える。

地学の5問テストや、生物の毎時間テストなどは効果が期待できるので実施するクラス等を拡大を検討する。

科学オリンピック・科学の甲子園等、従来参加できていなかった大会等に参加者を募り参加し、特に科学の甲子園では、理科の教員全員で取組み、香川県代表となった。来年度以降も頑張っていきたい。